



日本赤十字社

京都第一赤十字病院

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

ハル

泉山花
俊朝

京都第一赤だより

き

す

な

人道と奉仕の赤十字精神に基づき、
患者さまにとって安心できる
適切な医療を行ないます。

秋号

2013年10月発行

vol.

50

Contents

福知山花火大会火災における当院の活動	2,3
はんなり麻酔科創設	4,5
京都第一赤十字病院病診連携懇話会を開催しました	6
お知らせ	7

2014年4月から8%消費税が実施されますが、消費税増収分の一部を社会保障の充実にあてることが報じられています。なかでも、発症直後の急性期からリハビリが必要な回復期までの病院の役割分担、医療施設と介護施設の連携強化、在宅医療の推進などに資金が投じられるようです。

臨床現場では、ますます増加する高齢者患者やがん患者を地域全体でみていくことが求められています。当院でも、退院後患者さんを自院外来で

はなく、近隣医療機関や在宅医療介護施設と連携しながら診療していく責務があります。来年度には管理棟も完成しハード面での整備はほぼ終了しますが、今後は医療連携システムなどのソフト面の一層の充実に取り組んでまいりますので、ご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

京都第一赤十字病院 副院長

吉田 憲正

福知山 花火大会 火災における 当院の活動



8月15日夜8時過ぎ 病院を出ようとしたとき携帯がなった。市立福知山市民病院救命救急センター長からである。飲み会の誘いかと思いきや「爆発事故です、死傷者多数、テロの可能性あり、助けて!」とのこと、緊急事態発生です。福知山でテロはないだろうと考えながらも、爆発事故であれば重症熱傷患者が多く発生し、気道管理をはじめとする集中治療も必要となります。また、一施設で多くの患者の入院加療は不可能で転院搬送が必要となり、そのための医療支援も必要となります。災害の初動で大切なことは「スイッチを入れてCSCATTT」です。自らに災害モードのスイッチを入れ(やや入りすぎたかもしれませんが)、院内ですれ違った名西・松浦先生を拿捕し、午後8時30分ドクターカーで福知山に出発しました。途中、京都府医療課に出動・状況を報告、さらにすでに福知山に向かっている但馬救命救急センター長と到着後の業務担当を調整、北部医療センター・南丹病院DMATに事故発生の情報提供し待機を依頼しました。福知山到着までの時間はほぼPC画面を見ながら情報収集、関係各所への連絡など休む間もありません。福知山市民病院到着後は病院長にあいさつした後、私と上門さんが本部に入り情報収集と転院搬送調整を、名西・松浦先生は病棟で傷病者の治療を担当しました。2名の先生はテキパキと気管挿管・熱傷処置

を実施し、福知山市民病院のスタッフからの評判もきわめて良好でした。普段とは違う二人の一面を見たような気がします(失礼)。松浦先生には救急車で、名西先生には深夜に消防ヘリで当院への患者搬送を担当していただきました。彼らはそのままICUで一睡もせず熱傷の治療を担当しました。我々が福知山にいる時も当院ではいろいろな活動が行われていました。ロジの柿本君は自主的に登院し京都府医療課との調整業務やEMIS(救急医療情報システム)入力等の後方支援を担当、ERでは外科の下村先生をはじめとする多くの先生方が待機してくださいました。病院が一丸となってこの事案に対応していただいたことに感謝致します。

搬送も一段落した我々とはいうと、帰京する手段を失い路頭に迷う羽目となりました。いつもの紺の作業衣の上にオレンジの赤十字ジャケットを着て電車で帰るのはちょっと恥ずかしいかもということで京都のタクシーを確保しました。深夜2時前、タクシー待ちの時間を利用して傷病者情報を確認するため近隣の病院を訪問するが、個人情報縦に丁重に断られました。恰好がかなり怪しかったのかもしれませんが。情報収集方法にも課題が残りました。朝5時前によりやく帰院、ICUに入室した入院患者の熱傷治療の後少し仮眠しようとしたところ福知山市外の病院に搬送された傷病者の転院依頼がありました。応

需の回答とともにまだ他にも転院希望がないかを尋ねたところ転院先が見つからない患者がいるとのこと、救命救急センターのネットワークを用いすぐに転院搬送先を確保しました。さらに福知山市内の病院でも同様の問題があるのではと他の病院にも確認したところ転院希望があることが判明、以後転院搬送については当院基幹災害センターにて一括調整することとしました。搬送手段については地域の救急搬送機能を維持できるように福知山消防本部と調整し、京都市内よりドクターカー3台を出動させることとしました。快く受け入れ・車両提供に協力していただきました京都第二赤十字病院・京都医療センター・京都市立病院に感謝申し上げます。

当院は京都府で大きな災害があった場合、迅速な初動だけでなく、その後の転院搬送・調整業務を含め京都府の基幹災害センターとして機能することが期待されています。平時、基幹災害センター・DMAT等の訓練・研修会を数多く企画・開催し多くの職員の皆様にご迷惑をおかけしていると思いますが、このような実災害でも即応できる体制確保のためご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

救急科部長 高階 謙一郎



はんなり 麻酔科創設

麻酔科部長 平田 学



9月1日より麻酔科部長を拝命しました平田学と申します。1992年卒業で、当院依田院長、佐和京都府立医科大学麻酔学教室教授、天谷同准教授のあとを継ぎました。よろしくお願いいたします。

私の経歴には二つの特徴があります。まず第一に福井大学卒業後は同附属病院で1年間の研修後当院に赴任し、以後一度も離れることなく勤務しており、ちょうど20年になると思います。従って当院の医師のなかで私より継続勤務歴の長い先生は依田院長、池田副院長、李乳腺外科部長、塩飽外科部長、上島呼吸器外科部長、山田産婦人科部長、大野感染制御部長、内匠呼吸器科副部長だと記憶しています。

また私はずっと麻酔科医をしているわけではなく、最初は消化器内科医をしておりました。京都在住の私の先輩は右京区で開業されておられる大塚弘友先生、南山城学園理事長の磯彰格先生、長岡京で開業されておられる菅田信之先生で、大塚先生と菅田先生は確か非常勤でときおりお見えではなかったかと思えます。よくよく鍛えていただき現在の私の基礎を築いていただいたと感謝しています。3年目半ばより麻酔科に移り、依田院長と齊藤元副部長に一人前の麻酔科医となるべく指導していただきました。私が中堅として働き始めた2005年サンフランシスコより佐和先生が帰国され、当科の部長となりました。その運営は斬新、効率的でありただただ驚くばかりでした。研究においても世界的権威であり、信頼申し上げていた通り2010年に京都府立医科大学麻酔学教室の教授として赴任されることとなりました。入れ替わりでこられた天谷准教授も学会での評判通り堅実かつ聡明なリーダーで手術室内のモニターおよび麻酔器を最新のものに更新していきました。この両部長のおかげで5,6人しかいなかった所属員も15名程度となり京都府内の一般病院のなかでは麻酔科医数が屈指となりました。このような好条件のなか部長職を引き継ぐことができ依田先生、佐和先生、天谷先生に感謝しております。

現在当麻酔科は手術室麻酔管理(去年は3700件台)、院内ICU8床の24時間の管理、救命センターICU6床の日勤帯管理を中心に診療を行っています。手術件数は一昨年に比べ昨年は若干減りましたが、開業の先生方、御施設からの病診および病病連携のおかげで現状でいけば3900件台に回復しそうな勢いです。私の第一の責務はこの手術室を安全にかつ効率的に運用してゆくよう尽力することと思っています。麻酔科はあまり顔の見

えない部門とよく言われますが、今後は私達も積極的に病診、病病連携の会合に参加させていただき先生方に紹介していただいた患者さんの当科での対応等につきフィードバックしてゆきたいと思います。また”はんなり麻酔科集中ぶろぐ”というブログを立ち上げ外部とのコミュニケーションを図っておりますので是非ともご覧いただければ幸いです。

まだまだ就任したばかりでふつつかなところが多いとおもいますが、どうぞ末永くご指導いただければありがたいと存じます。



症例数、診療成績

- ・平成24年度麻酔科管理手術件数:3,676件
- ・平成24年度集中治療室入室患者数:救命ICU 530名、C2ICU 337名

手術件数増加策の一環として朝の麻酔開始時間を30分早め8時30分とした。手術開始時間を早めることによりスムーズな手術室運営につながるものと期待している。現在手術件数はやや減少している状況であり、今後も手術件数増加に向けて協力していきたい。

緊急手術への対応について

土曜日日勤帯の緊急手術対応可能列を二列にするべく、麻酔科セカンドコールを設置した。現在までの所複数列の緊急手術受け入れについて大きな混乱はきたしていない。

集中治療室の運営について

平成24年度にはC2ICUを開設することができた。定期手術の術後管理と院内発症の重症症例を受け入れる役割に加え、救命ICUにおいて重症化・長期化した患者に対する集中治療を継続して提供する役割を担っている。

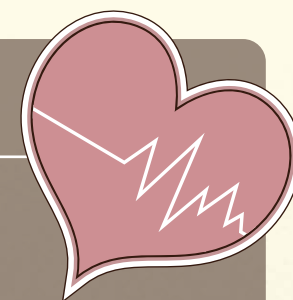
学術関連の業績

論文

- 1) 天谷文昌.: 末梢受容器から一次感覚神経で感じる痛み, LiSA 19: 460-464, 2012.
- 2) 平田 学: 集中治療管理を行った術後急性腎傷害症例の予後評価と腎機能代替療法, 日本急性血液浄化学会雑誌3(2):129-134, 2012

学会発表

- 1) 天谷文昌: 痛覚受容と伝達のメカニズム: 最新の知見は何をもたらすのか?, 第59回日本麻酔科学会, 2012/6/7: 神戸
- 2) 天谷文昌: シンポジウム11. 局所麻酔のこれから, 「局所麻酔薬の選択性を上げるにはどうしたらよいか」, 第32回日本臨床麻酔科学会, 2012/11/1: 福島
- 3) 長田佳那子: 1700gの低出生体重児に対する胸腔鏡下手術麻酔の経験, 第58回日本麻酔科学会, 関西支部学術集会2012/ 9/1: 大阪
- 4) 平田 学: 心臓大血管術後慢性腎臓病急性増悪は予後不良である, 第17回日本心臓血管麻酔科学会, 2012/9/15: 仙台
- 5) 平田 学: 集中治療管理を行った産科11例の続報, 第40回日本集中治療医学会, 2013/2/28: 松本
- 6) 堀江里奈: シミュレーターによる経食道心エコーの訓練効果, 第59回日本麻酔科学会, 2012/6/7: 神戸
- 7) 松田 愛: 術後痛治療の現状と問題点の解析, 第59回日本麻酔科学会, 2012/6/7: 神戸
- 8) 松田 愛: 当院ICUにおける再挿管症例の予後と背景因子の解析, 第40回日本集中治療医学会, 2013/2/28-3/1: 松本
- 9) 山崎真理恵: 26週妊婦の脳出血に対し緊急帝王切開術及び開頭血腫除去術を行った一例, 第116回日本産科麻酔学会, 2012/12/9: 埼玉
- 10) 山崎正記: 胸部大動脈手術後の人工呼吸離脱に与える因子の検討, 第40回日本集中治療医学会, 2013/2/28: 松本
- 11) 山下理比路: 大量出血症例の麻酔管理と予後に関する検討, 第58回日本麻酔科学会, 関西支部学術集会, 2012/ 9/1: 大阪



平成25年度 京都第一赤十字病院 病診連携懇話会

京都第一赤十字病院 病診連携懇話会を開催しました

209名(院外110名院内99名)が参加

ご参加いただいた皆様ありがとうございました

今年度もハイアットリージェンシー京都にて連携医療機関の皆様をお招きし、病診連携懇話会を開催いたしました。ご参加いただいた皆様、またお忙しい中、ご講演いただきました先生方、誠にありがとうございました。

今後も地域医療連携の充実強化に向け努力してまいりますので、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

開会の挨拶
第1部 新しい診療体制(新任部長)の紹介
講演1 子宮がんのお話 第一産婦人科部長 池田 栄人
講演2 表の顔は新生児科、裏の顔は… 新生児科部長 大久保 智治
講演3 脳神経・脳卒中科の診療と今後の展望 脳神経・脳卒中科部長 今井 啓輔

第2部 さらなる医療連携に向けて
講演4 ロコモティブシンドロームと要介護にならないための新常識 整形外科部長 山添 勝一
講演5 がん地域医療連携パスについて がん地域医療連携部長 塩飽 保博
閉会の挨拶 河野 義雄

プログラム内容

第1部 新しい診療体制(新任部長)の紹介

子宮がんのお話



第一産婦人科部長
大久保 智治

表の顔は新生児科。 裏の顔は…



新生児科部長
西村 陽

脳神経・脳卒中科の 診療と今後の展望



脳神経・脳卒中科部長
今井 啓輔

第2部 さらなる医療連携に向けて

ロコモティブシンドロームと 再骨折予防



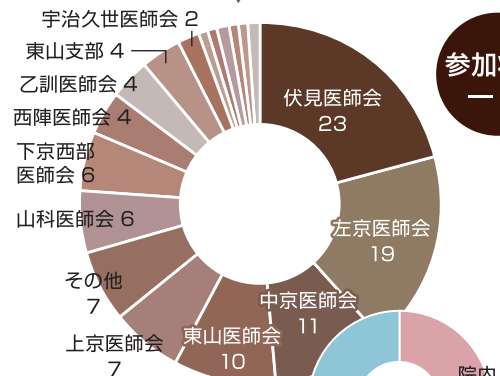
整形外科部長
山添 勝一

がん地域医療連携 パスについて



外科部長
塩飽 保博

右京医師会／中京東部医師会／下京東部医師会／
綴喜医師会／中京支部／山城支部 各1



参加状況
一覧



お知らせ

Information

11月20日休診(病院創立記念日)のお知らせ

11月20日(水)は、京都第一赤十字病院創立記念日のため休診いたします。急患の方は、救命救急センター外来へお越し下さい。

京都第一日赤がん診療連携ワークショップ

日 時：平成25年12月5日(木)18時30分から
会 場：ホテルグランヴィア 源氏の間
テーマ：「がん患者の在宅サポートにむけて」

京都第一赤十字病院健康教室

日 時：平成25年11月9日(土)14時～16時
会 場：メルパルク京都 5階会議場B
テーマ：血液疾患と頭頸部がん

- ① 血液がんの基礎知識について ～血液がんは不治の病?～
血液内科部長 兼子 裕人
- ② 頭頸部がんの診断と治療 ～機能温存をめざして～
耳鼻咽喉科 為野 仁輔

※公開講座になっておりますので、患者さまで関心のある方が
おられましたらご案内いただけましたら幸いです。

緊急性がある患者様のご紹介について

緊急性がある場合は、医師に直接つながる医療機関専用のホットラインへご連絡ください。
患者さまからのお電話はご遠慮ください。 **TEL:075-533-1271**



当院では、医療連携の一環として、各医院様などの各医療機関様を受診されているお子様の中で、児童虐待の被虐待が疑われるが、通告を迷われる場合などのご相談を承っております。窓口の小児周産期支援担当参事 藤原(075-561-1121 PHS:1820)を通して、当院児童虐待対策委員会と相談しながら、お返事をさせていただきます。

連携室だより

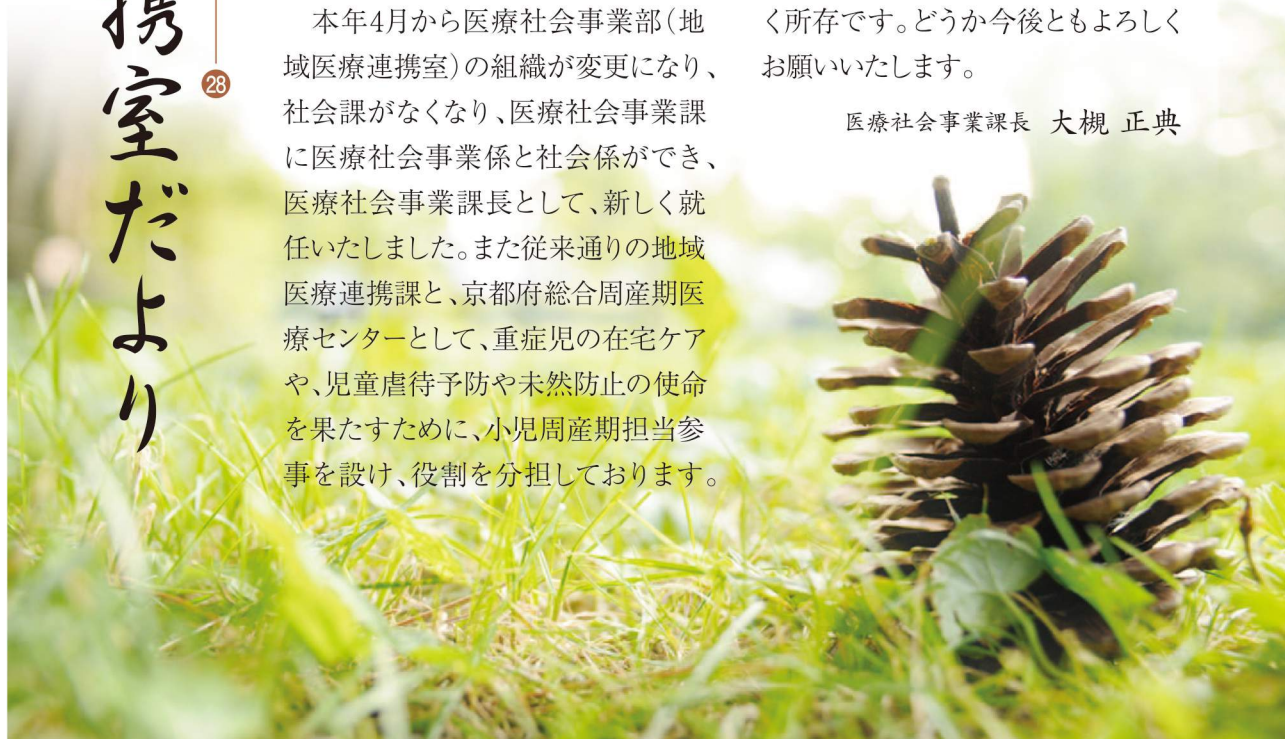
巻末コラム 28

長い暑い夏が終わり、ようやく秋の気配を感じられるようになりました。

本年4月から医療社会事業部(地域医療連携室)の組織が変更になり、社会課がなくなり、医療社会事業課に医療社会事業係と社会係ができ、医療社会事業課長として、新しく就任いたしました。また従来通りの地域医療連携課と、京都府総合周産期医療センターとして、重症児の在宅ケアや、児童虐待予防や未然防止の使命を果たすために、小児周産期担当参事を設け、役割を分担しております。

赤十字病院としての理念をより有効に果たしていくために、努力していく所存です。どうか今後ともよろしく願いたします。

医療社会事業課長 大槻 正典



Access to Japanese Red Cross Kyoto Daiichi Hospital

当院へのアクセス



電車をご利用の場合

JR奈良線、京阪電鉄…「東福寺」駅下車、徒歩5分

バスをご利用の場合

市バス202、207、208系統「東福寺」バス停で下車

車をご利用の場合

【奈良、大阪方面から】… 京都南IC出口、国道1号線を北へ約2.5キロ京阪国道口を東(右折)へ、九条通りを約2.5キロ

【山科、大津方面から】… 国道1号線を西進、東山五条交差点を南(左折)へ、東大路通りを約2キロ

【京都駅付近から】… 竹田街道を南へ約500メートル、大石橋交差点を東(左折)へ九条通りを約500メートル

京都第一赤十字病院

京都市東山区本町15-749 TEL.075-561-1121

地域医療連携室 【直通】TEL.075-533-1280

FAX.075-533-1282